

水害対策の強化へ

里見氏と党愛知県議団が視察

河川防災ステーションで 現状や防災事業聞く



国内有数の海抜ゼロメートル地帯が広がっている日光川流域(愛知県津島市)の水害対策を強化するため、公明党愛知県議団(木

藤俊郎団長)はこのほど、日光川河川防災ステーションを訪れ、施設の概要や同流域の防災事業などについて話を聞いた。これには、

排水機場で水害対策について聞く里見氏(前列右端)と党愛知県議団

参院選愛知選挙区予定候補の里見りゅうじ党労働局長も同行した。

同施設は、豪雨などによる災害時に水防団などが水災害の防衛や緊急復旧活動を行う拠点としての役割を担う。面積約5500平方メートルの敷地内には、復旧活動に使う土砂を備蓄する資材備蓄ヤードや水防団の待機所となる水防センター、ヘリポートなどが配置されている。

同流域はこれまで、伊勢湾台風などの大規模災害や

集中豪雨により、広範囲にわたる浸水被害が発生している。

県議団は、関係者から現状などについて話を聞いた後、同施設や木曾川に放水するための排水機場などを視察した。木藤団長は「国

と連携し、予算の重点化などさらなる防災対策を加速させていく」と述べた。

里見氏は「南海トラフ巨大地震や豪雨災害に備え、安心して暮らせるまちづくりに取り組む」と語った。